

## 韓国絵本『天女銭湯』の日本語訳に見られる方言翻訳の問題

尹惠貞

(一橋大学博士後期課程)

### Abstract

*This article examines a Japanese version of “Fairy in Bath Jangsutang” originally published in Korea in 2012. The Japanese translation, published in 2016 with the title “The Bath Fairy,” employs a Kansai dialect although the original text is written in standard Korean. How can we make sense of the “dialect” translation? In the article, I try to clarify this issue in reference to picture books.*

### 1. はじめに

韓国で本格的に「絵本」が出版<sup>1)</sup>されたのは1988年のことであり、日本で韓国の絵本が翻訳出版<sup>2)</sup>されたのはその2年後の1990年のことであった。本稿では、2012年に韓国で出版された『장수탕 선녀님』(長寿湯の仙女様：筆者直訳)、ペク・ヒナ作と、その日本語版で2016年に翻訳出版された『天女銭湯』<sup>てんにょせんとう</sup>、長谷川義史訳、ブロンズ新社刊を取り上げる。韓国語版、すなわち原文テキスト (Source Text, 以下, ST) は標準韓国/朝鮮語で書かれているが、日本語版、すなわち翻訳テキスト (Target Text, 以下, TT) は日本語方言で訳出されている。方言翻訳されることを如何に説明するのか。絵本が翻訳の対象であるために生じる諸事象を明らかにするのが本稿の目的である。

なお、本稿での論考の前提として、重点となる用語についての定義ないし理解について明確にしておきたい。まず「絵本<sup>3)</sup>」とは、言葉と絵に相互作用がある本のことをさす。より具体的に言うと、藤本(2007:20)は、「絵本では、「文章」は読むだけでなく見るものであり、「絵」は見るだけでなく読むものなのです」と述べている。つまり、言葉にないものを絵が補い、絵にないものを言葉が補う。さらには、言葉と絵が対立することを語っている時さえあるのである。

このような特質をもつ絵本を「翻訳」する際は、ヤーコブソンの翻訳理論(1973:57-58)を用いる。つまり、翻訳には①言語内翻訳、すなわち、言い換え、②言語間翻訳、すなわち、本来の翻訳、そして③記号法間翻訳、すなわち、移し換えが含まれる。移し換えとは、ことばの記号をことばでない記号体系の記号によって解釈することである。絵本翻訳では、このうち②と③が必要となる。より正確に言うと、③では言語から非言語への解釈のみを

---

YOON Hejeong, “An Issue of Translation Seen in the Japanese Version of the Korean Picture Book “The Bath Fairy,”” *Invitation to Interpreting and Translation Studies*, No. 19, 2018. pages 127-144. ©by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

謳っているもので、単純に③とすることはできず、前述した藤本の「「絵」は見るだけではなく読むものなのです」というくだりを③の記号法間翻訳に反映しなければならない。なぜならば、絵本翻訳は、言語間でただ言葉を置き換えるだけでは足りず、STで言葉と絵が対立して表現されている場合、TTではその非言語である絵を移し換えて言葉にする必要も生じる場合もあるからである。

さらに本稿では、STが標準韓国/朝鮮語であるにも関わらず、TTでは日本語方言で訳出されている。方言の地域性を付加して翻訳することが至難であることに鑑み、これについては「役割語」という概念を用いる。役割語とは「ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと、特定の人物像（年令・性別・職業・階層・時代・容姿・風貌・性格等）を思い浮かべることができる時、あるいは特定の人物像を提示されるとその人物がいかにも使用しそうな言葉遣いをいう」（金水,2003:205）。このような役割語は、話者が現実に対して持っている観念であり、いわゆる「仮想現実」（ヴァーチャル・リアリティ）（Ibid:37）のことである。

以上の各定義ないし理解によりつつ、次章からは当該絵本のあらすじ、絵を読む（ドゥーナン,2013）、言葉・翻訳の問題に分けて分析した後、役割語としての方言使用の効果と、その他の翻訳の方法・手法に分けて考察したい。

## 2. 『天女銭湯』

### 2.1 あらすじ

主人公であるドッチという女の子の住む町には、古い銭湯がある。名は長寿湯（장수탕：ジャンスタン）という。町の大通りには岩盤浴やゲームがあるスパランドという大型施設もあるが、ドッチと母は相も変わらず、今日も長寿湯にやって来た。このお風呂にはドッチの大好きな冷水風呂があり、そこで遊んでいると、そこに突然天女が現われた。天女は冷水で遊ぶ方法をいろいろ教えてくれたのち、少し恥ずかしそうに、皆が風呂上りに飲んでいるのは何か、とドッチに聞いた。ドッチが「ヤクルト」と答えると、天女はとてもヤクルトが飲みたそうであった。そこで、ドッチはヤクルトを買ってもらうため、痛くて涙がでそうな垢すりを一所懸命我慢して、母にヤクルトを買ってもらい、それを天女に渡すことができた。家路につく時、ドッチは思うのである。喉は乾いたけど、またあの天女と遊べたらいいなど。しかし、その夕方から、頭が痛くなり鼻水が出て、だから冷水風呂で遊ぶのをやめなさいと言ったでしょ、と母に怒られてしまう。その夜中、熱の中で目が覚めると、頭も喉も痛かったが、痛いと思った瞬間、天女の冷たい手がドッチのおでこに置かれ、ヤクルトのお礼を言うのである。次の日の朝、ドッチの風邪はすっかり治っていた。

### 2.2 絵を読む

『天女銭湯』の絵を読むために、ドゥーナンの方法論を用いる。ドゥーナンは「絵が、表面上しめしていることや、何の形を描いているかということを一歩越えて、直接描くことのできないもの——たとえば、考えや雰囲気、抽象的概念や特質など——を、どう表現し、どのように比喩的に示しているのかを、つかみとる方法です」（ドゥーナン,op.cit.:6）

と述べている。絵本の絵をしっかりと読むために役立つとして、ドゥーナンは a) 判型、b) 枠や見開き、c) 絵内文字、d) 見返し（前・後）などに解説を加えており、本節は特にこれら項目について取り上げる。

#### a) 判型

『天女銭湯』は縦長版（280×205 mm）<sup>4)</sup>の絵本である。縦長版であるということは、作品として広い空間を必要としない（藤本, op.cit. : 119）ことを意味している。登場人物は一般的な絵本と異なり、絵で描かれているのではなく、紙粘土で人形が作られ写真撮影されている。

#### b) 枠と見開き

片側ページや、両面見開きページに「枠<sup>5)</sup>」（ドゥーナン, op.cit. : 151）という手法を使い、枠に囲まれた同じサイズのコマが並ぶことで並列的な話が続き、枠自体は細くなりそれに囲まれたコマのサイズが大きくなることで話が展開したりする。また、この枠を巧みに使うことで、両面見開きページで白地がなく絵で満たされるページが全4箇所(pp.10-11、pp.16-17、pp.22-23、pp.34-35)出てくるが、縦長の絵本でありながら絵本の内の空間を広く見せている。さらに、コマの中の背景や人物に対して、カメラ・ワークの引きや寄せの手法を使うことで映像的に奥行きをも表現することに成功しているなど、トータルデザインされた絵本ということができよう。

#### c) 絵内文字

絵本翻訳において ST と TT は、あくまで原則ではあるが絵は変わらないという特徴がある。しかし、当該絵本においては、最初のページを捲ると、pp.2-3 の両面見開きページにおいて、左の p.2 は白いページで構成され、右の p.3 は白地の枠に左上方寄りにコマが使われる所までは同様であるが、ST ではコマの中に赤い字で「목욕합니다」（沐浴しています）とハングルで立て看板（図 1）が立っている。TT ではその立て看板にはお風呂のマークである湯けむりが三本上ったものに、赤い字で「長寿湯」という漢字と「장수탕」というハングルと一緒に書かれている立て看板（図 2）に変わっている。確かに、絵本によっては絵の中にある文字を絵内文字（ニコラエヴァ et al., 2011 : 87）と解釈して、これを翻訳しないものも見受けられるが、当該絵本においてはそのように解釈せず、これは文字として翻訳の対象としている、と解釈することができる。もちろん、漢字の右横にハングルが書かれているという特殊な翻訳の形態をなしてはいるのだが。

図 1 : 韓国語版 p.3

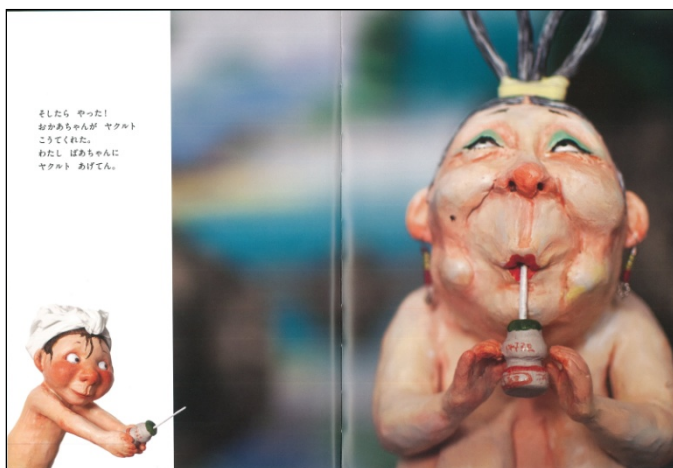


図 2 : p.3



一方で、pp.26-27 (図 3) を見ると、それはドッチが母からヤクルトを買ってもらい、それを天女に渡す場面、そして天女がヤクルトを飲む場面になっている。その中で、ヤクルトに表示されている字は、TT において絵内文字として処理された結果、ハングルのまま「야구르트」(ヤクルト)となっている。なお、ヤクルトをさす言葉としては、ST では「요구르트」(ヨーグルト)、TT では「ヤクルト」になっており、後述の該当箇所ですくしく述べる。

図 3 : pp.26-27



このように、「立て看板」の例は絵内文字として解釈されず、「ヤクルト」の例は絵内文字として解釈されており、同じ絵本の TT の中で凡そ別のもので解釈がなされたかのようにも見える。しかし、どちらもハングルが残されている点、絵内文字の解釈は翻訳する日本側の言語の機能(藤濤,2013:11)を考えてのことであろう。何故ならば、「목욕합니다」(沐浴しています)という立て看板の ST での意味は、「営業している」もしくは「営業中」という意味であって、これをそのまま字義とおろ「沐浴しています」と翻訳したのでは、日本の読者に馴染みがないということを考慮したと判断できる。また、ST のタイトルは前

述したとおり『장수탕 선녀님』(長寿湯の仙女様)であったが、TTのタイトルでは「長寿湯」が消え、『天女銭湯』と変更されている。タイトルで固有名詞である銭湯の名前が消えたことを補うためにも、日本語の言語機能で馴染みの少ない「沐浴しています」を削除して、ここに銭湯の固有名詞である「長寿湯」を補ったと考えられる。他方、ヤクルトはその形状が日韓でいずれも同じなので、絵からもそれであると読みとることができる、ということが考慮されたものと思われる。

#### d) 見返し

見返し(藤本, op.cit. : 183-187)も特徴的である。前見返し<sup>6)</sup>においては、これから話が展開されるだろう銭湯の中が両面見開きで描かれており、タイルに描かれている山や滝がこれからの話を暗示している。この前見返しが水風呂であることは話が進むにつれ、後に分かることである。また、後見返しでは銭湯の脱衣所が出てくるが、閉店した後なのだろうか。電気は消され販売用飲料水の冷蔵庫の明かりのみが付いており、それを桶から眺める天女の姿が描かれている。桶からの天女の姿も話を読み終えると、どういう理由で後見返しがこのように設定されたのか納得がいく。

### 3. 言葉・翻訳

本章では、絵本に書かれている言葉を、冒頭のページから順を追って ST として示し、それに筆者が直訳をつけ、そのあとに TT を示す。このように記すことでどのように翻訳がなされているのかを検討する。また、翻訳の対象が絵本であるので、単に言葉が言語間翻訳されて日本語に置き換えられたというだけではなく、記号法間翻訳、つまり絵も密接に関わってくるので絵もここで扱う。なお、2.2の「絵を読む」で特に扱ったものもここに含む。けだし、絵本がページをめくって読む表現媒体である以上、絵本はめくって文章を読み、あるいは、めくって絵を見ることにその特質がある(藤本, op.cit. : 97)ので、言葉は言葉のみ、または絵は絵のみ、といったように、それぞれはっきりと境界線をつけて分析することは困難であるからである。

p.3

ST : 우리 동네에는………… (うちの町には : 筆者直訳、以下同)

TT : わたしの すんでる まちには…………

p.4

ST : 아주아주 오래된 목욕탕이 있다. (とてもとても古い銭湯がある。)

TT : ふるーい 銭湯が あるんや。(下線部筆者による、以下同)

ST・TT どちらも、主人公であるドッチの一人称で話が進められている。しかし、STは韓国語の標準語を用いた一人称の地の文で書かれているのに対して、TTは下線で記したように方言(関西方言)の一人称で地の文が訳出されている。また、p.4のSTでは「とても」が2回繰り返され古いことを強調しているが、TTでは「ふるーい」と訳出することで、古いことを強調している。

p.3 は前述の絵を読むところで触れた「立て看板」の絵(図 1、2)の下に書かれている言葉であり、p.4 は白地のページのほぼ中央に書かれ、隣の p.5 にはドッチと母が手をつなぎ、銭湯に向かって歩いている絵となっている。人物であるドッチと母がカメラ・ワークの寄せで映されており、銭湯の建物は引きで映されている。

p.6

ST : 큰길가에 새로 생긴 스파랜드에는 불가마도 있고,얼음방도 있고,게임방도 있다는데…… (大きい通りに新しくできたスパランドには、サウナもあるし、氷の部屋もあるし、ゲーム部屋もあるというのに……)

TT : 스파랜드 いうのが おおどおりに できて、そこには <sup>がんばんよく</sup> 岩盤浴も こおりのへやも ゲームのへやまで あるんやて……。

p.8

ST : 엄마는 오늘도 장수탕이다. (ママは今日も長寿湯だ。)

TT : ほんでも おかあちゃんは きょうも <sup>ちようじゅゆ</sup> 長寿湯や。

p.9

ST : 그래도 한 가지! (それでもひとつ!)

TT : そやけどな!

p.10

ST : 울지 않고 때를 밀면 엄마가 요구르트를 하나 사 주실거다.

(泣かずに垢すりをするとママがヨーグルトをひとつ買ってくださるはずだ。)

TT : なんとか あかすり したら、おかあちゃんが ヤクルトひとつ こうてくれるはずやねん。

ST と TT どちらもまだドッチの一人称の地の文が続き、韓国語の標準語で書かれているものが TT では関西方言で訳出されている。

p.6 の右上方に枠があり、銭湯の主人らしきおじいさんがガラスの窓越にいる。この枠の左横には大人 4,000 ウォン、子ども 3,500 ウォンと書かれている。おじいさんがいる枠の少し下に上記 p.6 の言葉が記されている。p.7 は窓越しの向かい側にドッチとドッチの母が銭湯の料金をちょうど支払っている絵となっている。

p.8 の TT で「長寿湯」のルビは平仮名で「ちようじゅゆ」と付されているが、絵を読むことが意図された前章の「立て看板」(図 2)では「長寿湯」は「장수탕」(ジャンスタン)と書かれていたことはすでに述べた。

p.9 の ST の直訳は「それでもひとつ」であるが、スパランドに行かなくても長寿湯にもいい所があるという話の転換の言葉なので、TT では関西方言として「そやけどな」と訳出されており、特に印象や効果が変わった様子はない。

p.10 の ST であるが、韓国語では主体敬語<sup>7)</sup>が使われるので、母親が買ってくださいと直訳した。しかし、TT では関西方言で訳出しているし、日本では主体敬語は使われず、子どもであるドッチは母親がヤクルトを買ってくれるということを、敬語を用いて表現するとは考えにくい。日本の文化に合わせて訳出されたのであろう。ただ、このことで絵本の雰囲気に変化が持たされたとは言えない。なお、前章の絵を読むでは、ヤクルトは絵内文字(図3)として翻訳されていないことは述べた。しかし、ST では「요구르트」(ヨーグルト)と書かれており、実際韓国に存在する会社名で固有名詞である「야구르트」(ヤクルト)をわざわざ避けたのかもしれない。

p.13

ST : 그리고 하나 더! 내가 가장 좋아하는 냉탕. (それからもうひとつ私が一番好きな冷水風呂)

TT : それから もひとつ! わたしが いちばんすきな みずぶろもあるで。

ST : “덕지 너, 감기 걸려도 엄만 모른다!” (ドッチ、あんた風邪ひいてもママ知らないよ!)

TT : 「ドッチ、かぜ ひいても おかあちゃん しらんで!」

p.14

ST : 풍덩풍덩 (ジャブジャブ)

발 딛고 개해엄치기. (足つけて犬かき。)

TT : スイ スイ スイ

あし ついて いぬかき やろ。

ST : 어푸어푸 (オップオップ)

국가 대표 덕지 선수 금메달! (国家代表ドッチ選手金メダル!)

TT : ダイ ヨン ノ コース

ドッチせんしゅ きんメダル かくとく!

ST : 꾸르륵 (クルルッ)

으악, 배가 침몰한다! (うわ、舟が沈む。)

TT : ブク ブク ブク

あかん しずむ!

ST : 그런데…… (だけど)

TT : うん……

p.15

ST : 어? (え?)

TT : あれ?

p.17

ST : 이상한 할머니가 나타났다! (おかしなおばあちゃんが現れた!)

TT : な、なんや この ばあちゃん どっから でてきたん!

ST と TT どちらもまだドッチの一人称の地の文で話が展開している。p.13 は長寿湯のもう一つよいところを「それからもひとつ」として、水風呂であることを紹介している。また、ここで初めてドッチの母親の話体である台詞が出てくる。ST では標準韓国語で書かれているが、TT では関西方言で翻訳されている。

p.14 は水風呂でドッチが遊んでいることが書かれている。ここは言葉に合わせて、同じサイズのコマが縦に並んでおり、話が並列的に進んでいることが分かる。言葉を詳細に見ていくが、犬かきの音を ST では直訳すると「ジャブジャブ」とも言えるような、水が跳ねる擬音語で書かれているものを、TT では「スイ スイ スイ」と水が跳ねず、水の中を軽快に進む擬音語に変化させている。次は「オップオップ」という息継ぎの擬音語が ST では書かれているが、TT ではこれが削除され「ダイ ヨン ノ コース」という、絵でも見ることができない言葉で訳出されている。ST で「国家代表ドッチ選手金メダル」という言葉を、TT では何かの大会の第四コースに移し換え、「かくとく」という ST では見ることのできない言葉を付け加えている。さらに ST では、桶で代用されている舟が沈む音として「クルルッ」という擬音語が使われているが、TT ではこれを「ブク ブク ブク」と訳出しており、後続のしずむという動詞とマッチさせている。

p.15 では、ドッチが水風呂で遊んでいる様子はカメラ・ワークの寄せで、後方から誰かが近づいてくる様子はカメラ・ワークの引きで表現し、それに合わせて ST では「え?」、TT では「あれ?」という言葉が添えられている。

次の p.17 に言葉は書かれているが、絵は pp.16-17 の両面見開きのものとなっている。言葉を見ると、ST では「おかしなおばあちゃんが現れた」だが、TT では「この ばあちゃん どっから でてきたん!」のように訳出されており、ST にある「おかしな」は TT では表れず、おそらく絵から読み取れるようになっているのであろう。このように考えるのは、この両面見開きでは、前のページとは異なり、逆にドッチがカメラ・ワークの引きになり、おばあちゃんがカメラ・ワークの寄せになっているからである。

p.18

ST : “겁먹지 마라,애야. 나는 저기 산속에 사는 선녀란다. 날개옷을 잃어버려 여태 여기서 지내고 있지.” (「怖がらないで、私はあの山奥に住む仙女なの。羽衣を無くして、まだここで過ごしているの」)

TT : 「おじょうちゃん、こわがらんといてね、わたしは ほれ あのやまに すむ 天



女よ。はごろもを なくして しもうてね、ここに いるしか ないんよ」

p.19

ST: 선녀할머니는 ‘선녀와 나무꾼’ 이라는 옛날이야기를 들려주셨다. 다 아는 이야기였지만 모르는 척 끝까지 들어 드렸다. (仙女おばあちゃんは、「仙女ときこり」という昔話を聞かせてくださった。全部知っている話だったけど、知らんふりして最後まで聞いてさしあげた。)

TT: その <sup>てんによ</sup>天女のばあちゃんは 「<sup>てんによ</sup>天女ときこり」の むかしばなしを きかしてくれてん。ほんまは しってるはなしやけど しらんふりして きいてあげたんや。

図 4: pp.18-19 (ブロンズ新社 HP)



p.18 で初めて ST では仙女、TT では天女の話体である台詞が出てくる。繰り返しになるが ST は標準韓国語で書かれているものが、TT では関西方言で訳出されている。「ほれ」と言った感嘆詞は ST では見ることはできず、訳出する際関西方言の特徴として補われたものであろう (図 4、左頁)。

p.19 はまたドッチの一人称の地の文であるが、ST ではこの仙女のおばあちゃんから話を聞いたので主体敬語で直訳しているが、TT では前述の p.10 と同様日本の文化に合わせて訳出されているので、敬語は使われない (図 4、右頁)。羽衣を無くして、ずっとここにいると述べている天女が「天女ときこり」の話をしていることから、この天女が昔話「天女ときこり」に登場する天女なのだろうか。この点、4 考察のところで述べる。

p.20

ST: 우아,이럴 수가! 할머니는 냉탕에서 노는 법을 정말 많이 알고 계셨다. (うわ、こんなはずが！おばあちゃんは冷水で遊ぶ方法を本当に沢山知っていらした。)

TT: うわー、ばあちゃんは みずぶろあそびの プロ やった。

ST: 싸아아,폭포수 아래서 버티기! (ザー、滝の下で我慢！)

TT: たきに うたれる、これ しゅぎょう!

ST: 침병침병, 바가지 타고 물장구치기! (バシャバシャ、桶にのってバタ足!)

TT: おけを うきわにして バタあし!

p.21

ST: 꼬로록꼬로록, 탕 속에서 숨 참기! (ゴポゴポ、水の中で息止め!)

TT: ゴボ ゴボ ゴボ、미즈 노 나카 데 이키 토메테!

p.23

ST: 우아! (うわ!)

TT: よいところせ——!

図 5: pp.22-23 (ブロンズ新社 HP)



p.20 では、天女から水風呂で遊ぶ方法を学ぶことが絵と言葉で書かれている。絵は同じサイズのコマがふたつ上下に並ぶ。言葉を詳細に見ていくと、まず ST では「おばあちゃんは水風呂で遊ぶ方法を本当に沢山知っていた」という、主体敬語が使われているが、TT では沢山知っていることを「プロ」と表現し訳出している。次に、ST では「滝の下で我慢」を、TT では「しゅぎょう」と訳出している。さらに、バタ足の擬音語が ST では「バシャバシャ」と書かれているが、TT ではこの擬音語の訳出を省略して「バタあし」としている。

p.21 も水風呂に潜っておばあちゃんと遊ぶ絵と言葉になっているが、コマのサイズは p.20 の 2 倍になり、コマはひとつになっている。言葉としては、ST では水の中に潜る時のドッチの息の音が「コロロッ」という擬音語で書かれているが、直訳すると「ゴポゴポ」だろうか。TT では「ゴボ ゴボ ゴボ」と擬音語の液体と空気がまじり合って吸い込まれたり噴き出されたりする時に出る音、として訳出されている。

p.23 に言葉が書かれているが、絵は上図 5 (pp.22-23) の両面見開きであり、天女がドッチを背にのせて水の中を泳いでいるものとなっている。ST では「うわ!」とドッチの一人

称の地の文として書かれているが、TTでは「よいところせ！」と関西方言で、視点が変わり天女の掛け声となっている。STでは、あくまでドッチの一人称で地の文が書かれていたが、ここになってTTでは、地の文であることは変わらないが、視点が変わり天女の視点となっている。同じ絵であり地の文でありながら、視点の相違により、この両面見開きの読者へと与える印象はかなり違うものとなっている。

p.24

ST：“그런데 애야,제게 도애채 뭐냐? 아주 맛나게들 먹더구나.”

선녀 할머니가 요구르트를 가리키며 수줍게 물었다. (だけど、ねえ、あれは一体なに？とても美味しそうに飲んでるわね。仙女おばあちゃんはヨーグルトをさしながら恥ずかしそうに聞いた。)

TT:「もしもし おじょうちゃん、あれは なによし? みな おいしそうに のんではるけど」ばあちゃんが ヤクルト ゆびさして、きいてきたんや。

ST：“요구르트요.” (「ヨーグルトです」)

“요……요구룽?” (「ヨ……ヨグルン?」)

“음……잠깐만요!” (「うーん、少し待ってください」)

TT:「ヤクルトやん」

「ヤクルン?」

「なんぎやなあ……ちょっと まってて!」

p.25

ST: 나는 뜨거운 탕에 들어가 때를 불렀다. 숨이 막혔지만 꺾 참았다. (私は熱い湯に入って垢を浮かした。息が詰まったけど、ぐっところえた。)

TT:わたし アツアツの おふろに はいって あかを うかしてん。 あついけどがまん してん。

ST:엄마가 때를 밀 때도 눈물이 나려는 걸 꺾꺾 참았다. (ママが垢すりをする時も涙がでそうなのをぐっ、ぐっところえた。)

TT: ほんでから おかあちゃんの あかすり、なみだ でそうやったけど がまん したで。

p.26

ST: 드디어 엄마가 요구르트를 하나 사 주셨다. 나는 할머니께 요구르트를 드렸다. (とうとう母さんがヨーグルトを一つ買ってくださいました。私はおばあちゃんにヨーグルトを差し上げた。)

TT:そしたら やった! おかあちゃんが ヤクルト こうてくれた。 わたし ばあちゃんに ヤクルト あげてん。

p.24 は三つのコマに分かれ、一番左上には知らない子がヤクルトを飲んでいるさま、真ん中のコマは前述のコマよりはやや大きく、天女が描かれている。その天女は左上のコマを右手で指しながら、左手は頬におき、いかにも恥ずかしそうにたずねている。言葉としては、ST では「恥ずかしそうに」というフレーズがあるが、TT では削除されている。また、ST では「あれは一体なに？」というフレーズが、TT では「あれは なによし？」と訳出されている。この「なによし？」に関しては、後述 p.34 の「ようなりよし」と併せて分析する。また、おばあちゃんに「なに？」と聞かれて、「ヨーグルトです」と答えるドッチを尻目に、おばあちゃんはその答えを ST では「ヨグルン」、TT では「ヤクルン」と聞き違えている。

p.25 は上下に同じサイズのコマが並んでおり、上のコマは熱湯で顔を真っ赤にしながらかたを浮かせているドッチ、下のコマは垢すりをしてもらっているドッチとなっている。言葉としては、熱湯では ST は「息が詰まったけど、ぐっところえた」と擬態語が使われているが、TT では「ぐっ」という擬態語は省略され、熱湯の熱さを「アツアツ」と強調している。また、垢すりでは ST は「ぐっ、ぐっ」ところえたという擬態語が使われているが、TT ではやはり省略されている。

p.26 の ST では、主体敬語から母がヤクルトを買ってくださったとなっているし、客体敬語<sup>8)</sup>でおばあちゃんにヤクルトを差し上げたとなっているが、TT ではもちろんそのような敬語法は使われてない。

p.28

ST : 목이 조금 말랐지만 참을 만했다. 다음에 또 할머니랑 놀면 좋겠다. (喉が少しかわいたけど、我慢できた。次にまたおばあちゃんと遊べたらいいのに。)

TT : ちょっと のどが かわいたけど わたし へいき。

また あの ばあちゃんと あそべたら ええのにな……。

p.30

ST : 그런데 오후가 되자,머리가 아팠다. 콧물도 났다. (けれども、午後になると頭が痛かった。鼻水も出た。)

TT : それやのに ゆうがた あたま いたなって、はなみず でてきた。

ST : “거봐, 엄마 말 안 듣더니 감기 걸렸네!” (「ほら、母さんの言うこと聞かないから、風邪ひいたでしょ!」)

TT : 「そやから いうこと きかんさかい かぜ ひいたやろ!」

p.33

ST : 한밤중 잠에서 깬다. (真夜中に目が覚めた)

머리가 지끈지끈 목구멍이 따끔따끔 온몸이 후끈후끈 너무 아파…… (頭がずき

ずき、喉がひりひり、全身があつあつ、本当に痛い……)

TT: よなか めがさめた。

あたま ずきずき、のど ひりひり、からだ あつあつ、い、いたいー……。

ST: 그때! (その時)

TT: そのとき!

p.28 は銭湯から出てきて、母と手をつないで家路につく様子が描かれている。前述の p.5 が銭湯へ行く様子であったが、逆に銭湯を後にする様子が描かれている。言葉は、ST では喉は乾いたけど、我慢できると書かれているところ、TT では「わたし へいき」と訳出されている。絵からはドッチがとても得意そうな顔をしていることがわかる。

p.30 は二回目のドッチの母の台詞が出てくる。標準韓国語で書かれている台詞が、関西方言として訳出されている。p.31 は鼻水を垂らすドッチがページ一面に大きく描かれている。

p.33 の言葉は ST も TT もドッチの具合の悪さを表わしている。また、絵においても顔が赤いので熱があることを表わしているが、鼻水を垂らしていることは言葉では表わされず、絵のみから表現されている。「その時」の言葉の下に小さなコマがあり、そこには桶から顔の半分だけを出している天女が描かれている。ここで、絵を読むところで触れた後見返しの、桶からの天女の姿が設定されている理由が分かるのである。

p.34

ST: “덕지야, 요구령 고맙다. 얼른 나아라.” (「ドッチ、ヨグルンありがとう。はやくなおってね。」)

TT: 「ドッチちゃん ヤクルン ありがと、はよう はよう ようなりよし」

p.35

ST: 아……시원해. (あ……冷たい。)

TT: ひえ——……ちめたい。

p.37

ST: 다음 날 아침, 거짓말처럼 감기가 싹 나왔다. (次の日の朝、嘘のように風邪がすっかり治った。)

TT: あれっ、かぜは?……あさ おきたら うそみたい なおってる。

ST: “고마워요, 선녀 할머니!” (「ありがとう、仙女おばあちゃん!」)

TT: 「ありがとう <sup>てんにょ</sup>天女のばあちゃん!」

p.34 と 35 は両面見開きとなっており、ドッチが熱にうなされている中、桶から天女が上

半身を出し登場し、ドッチの頭に手を置く絵が描かれているのである。それに合わせて、STでは「はやくよくなってね」と言葉が書かれているが、TTでは「はよう はよう ようなりよし」に訳出されている。ここで、「なによし?」と「ようなりよし」と訳出されている部分であるが、その他の下線部の語尾とは若干異なるもののように感じる(鄭,2007: 77-78)。全国方言辞典<sup>9)</sup>によると、「~よし」は京都方面もしくは和歌山方面の方言であり、「~してください」という意味だという。また、京都方言話者<sup>10)</sup>にたずねたところ、「いい加減にしよし」など怒る時に、よく使っていたという。さらに、寺島(1995: 18)は、「よし」は動詞連用形に付いて「命令」の意を示す。目上には用いない。」と述べている。以上のことから考えると、「なによし?」と訳出されているところは、連用形ではないので、翻訳者の造語である可能性は高い。この「~よし」に関して翻訳者<sup>11)</sup>にたずねたところ、京ことばというよりも天女はこんな言葉を使うのではないか、という回答であった。訳者のイメージからこのように話す天女が生まれたのであろう。

p.36には両腕をあげて元気になったドッチの姿が描かれ、その隣 p.37 白地のページにSTもTTも言葉が書かれているのである。

#### 4. 考察

以上のように、前章では方言翻訳について、その他の翻訳の方法・手法について、及びそれらに関わる絵を分析したので、本章では考察として、4.1 役割語としての方言使用の効果、4.2 その他の翻訳の方法・手法に分けて考察する。

##### 4.1 役割語としての方言使用の効果

STとその直訳及びTTの比較を通じて、本作品では一貫して標準語で書かれているSTがTTでは関西方言で訳出されている、ということがわかる。

この点、登場人物のドッチとドッチの母は「人」であるため、関西方言を話す人物が登場する絵本であると考えれば、関西方言を話すのは納得できる一面もある。しかし、誰も天女とは話したことがないだろうし、天女が関西方言を話すだろうか。この疑問については、金水(op.cit.: 37)が言うところの「仮想現実」(ヴァーチャル・リアリティ)である役割語、という見地から答えることができると思われる。金水は、大阪人・関西人に当てはまるステレオタイプについていくつかまとめているが、当該絵本に該当するものとしてはおしゃべり好き・食いしん坊・派手好きであろう(金水,op.cit.: 82-83)。

この視点から見たとき、当該絵本に登場する天女は、ドッチにどんどん話しかける印象があるので上記のおしゃべり好きにあてはまる。次に、みんなが飲んでいるヤクルトに興味を示し、ドッチが喉の渇きを我慢しながら譲ってあげたヤクルトを喜んで飲んでいるので、食いしん坊にあてはまる、ということができる。さらに、本作品での天女のイメージは、図3、4を飾る天女の姿にも明確に表れている。図のように、天女は緑色のアイシャドーを入れ、真っ赤な口紅に大きなイヤリングまでしており、派手好きにあてはまると言ってよいだろう。天女がおしゃべり好き・食いしん坊・派手好きという大阪人・関西人のステレオタイプという視点ももちろんあるが、前章ですでに述べたように、天女はこんな言葉を使うのではないか、という翻訳者の言葉からも、天女が話す関西方言は「仮想現実」

(ヴァーチャル・リアリティ) な関西方言と考えるべきであろう。

では、ドッチとドッチの母が関西方言として訳出されるのはどうであろうか。この点、当該絵本はドッチの一人称で話が進められているので、ドッチがおしゃべりということは言えるが、ドッチの母の台詞はわずか2回 (p.13 と 30) であり、大阪人・関西人のステレオタイプにあてはまると容易には言えない。前章 pp.18-19 を分析する際、羽衣を無くしてずっとこの銭湯にいと述べた天女が「天女ときこり」の昔話を語ったことを想起したい。昔話において人でない登場人物が、主人公やその他の者たちと交渉を持ち、話すということが「一次元性」として説明される。藤本 (2000 : 133) によると、「一次元性」とは住む次元の違う者同士に会話が成り立つことをいう。主人公であるドッチは天女が現れた時、このおばあちゃんどこから現れたと思うが、普通に言葉を交わし、おしゃべり好きの天女の語る「天女ときこり」の話を聞いてあげ、水風呂で一緒に遊ぶ。ST では韓国語を話すドッチとドッチの母が銭湯に行き、天女と出会ったので、天女は韓国語を話すのであり、TT では大阪弁を話すドッチとドッチの母が銭湯に行ったので、天女が大阪弁を話すという「一次元性」と考えられるのではないか。つまり、この節の最初に戻り、ドッチとドッチの母の言葉 (方言) が当該絵本の「現実」であり、天女が話す言葉 (方言) が当該絵本の「仮想現実」(ヴァーチャル・リアリティ) であるのである。

#### 4.2 その他の翻訳の方法・手法

『天女銭湯』では、役割語としての方言使用のみならず、その他にも様々な翻訳の方法・手法を取り入れている。ヤーコブソンのいう言語間翻訳や記号法間翻訳がなされているところもある。また、これのみならず翻訳する側、つまり日本の事情や文化を加味して翻訳しているところもある。大きく分けて、a) 言葉の削除、b) 言葉の変換、c) 言葉の付加に分けて3章で分析した翻訳の方法・手法を考察できると考える。

##### a) 言葉の削除

p.8 の ST 「とてもとても古い」は、TT で「ふるーい」と翻訳され、「とても」という副詞が削除されている。

ST では、ドッチが母親や天女に主体敬語や客体敬語を使っている (p.10、20、26) が、TT でそのまま言語間翻訳すると日本語では読みにくく、敬語を削除して翻訳している。

p.14 の ST 「オッフオッフ、国家代表」が削除され、「ダイ ヨン ノ コース」と翻訳している。

p.17 の ST 「おかしなばあちゃん」の「おかしな」が削除され、TT では絵から「おかしな」を読み取れるように「この ばあちゃん」と翻訳している。

p.24 の ST 「恥ずかしそうに聞いた」の「恥ずかしい」が削除され、TT では絵から「恥ずかしい」を読み取れるようになっているものの、言葉からの絵への誘導はない。

p.25 の ST 「ぐっ」とこらえた、涙が出そうなら「ぐっ ぐっ」とこらえたという擬態語が削除され、絵からこらえる様子が読み取れるようになっている。

##### b) 言葉の変換

次に言葉の変換であるが、p.9 の ST 「それでもひとつ」と話の転換の言葉を用いており、

TTでは「そやけどな」と変換して翻訳している。

STで擬音語(p.14、21)が使われているところは、TTでは日本語でより適宜な擬音語「スイ スイ スイ」、「ブク ブク ブク」や「ゴボ ゴボ ゴボ」に変換されている。

p.20のST「沢山知っていること」を、TTでは「プロ」と変換して翻訳し、また同じページの「滝の下で我慢」を、TTでは「しゅぎょう」と変換して翻訳している。

p.23のST「うわ!」を、TTでは「よいとこらせ——!」と変換して翻訳している。ここでは言葉の変換のみならず、ドッチから天女ばあちゃんへと視点の変換も行われている。

p.28のST「喉は乾いたけど、我慢できる」を、TTでは「わたし へいき」と変換して翻訳しており、平気な様子が絵から読み取れるようになっている。

#### c) 言葉の付加

最後に言葉の付加であるが、絵本は幼い子どもも読む可能性があることから、漢字にはルビが付されている。例えば、岩盤浴・長寿湯・天女にはふりがなが付されている。

p.14のSTにはなかった名詞が、TTでは「かくとく」と付加され翻訳されている。

p.18のSTにはなかった感嘆詞が、TTでは「ほれ」と付加され翻訳されている。

## 5. おわりに

本稿は、まず絵を読むことで、判型や枠その中にあるコマの働きを見ることができた。また、絵内文字が絵内文字として翻訳の対象にならなかったものと、STにおける当該絵本に登場する銭湯の固有名詞を示しておく必要性、及び字義通り翻訳すると日本の文化に馴染まないで翻訳対象となった絵内文字があった。さらに、前見返しや後見返しは絵本の主題や物語の内容を補うものとして作られていることが分かった。

次に、ST(直訳)、TTを逐一比較分析することで、標準韓国語が関西方言として翻訳されたことが分かった。方言翻訳されたことは「仮想現実」(ヴァーチャル・リアリティ)である役割語として説明できた。すなわち、天女と普通に言葉を交わす主人公ドッチがいる当該絵本の「現実」が、STでは全員標準韓国語の世界を作り、TTでは全員関西方言で翻訳されるという世界を作ったのである。

最後に、絵本が分析考察の対象であることから、例えば、STの言葉が削除され、TTでは言葉が置き換えられたものや、置き換えられながら絵を読むように言葉が指示しているもの、言葉の指示はないが、絵を読まなければならないものがあった。また、STで同じような言葉が使われるが、TTでそれを言語間翻訳するのではなく、言葉を変換して翻訳したものがあつた。さらにはSTではなかった言葉が、TTで付加されながら翻訳されたものもあつた。

韓国絵本『天女銭湯』の日本語訳に見られる、方言翻訳の問題を含む諸事象を明らかにした。今後は、同じ作者、同じ訳者の方言翻訳の作品<sup>12)</sup>と比較しながら、一般化できる問題と、当該絵本が持っている特殊性を明確に区別しながら研究を進めたいと考える。



.....  
**Acknowledgment:**

This work was supported by the Core University Program for Korean Studies through the Ministry of Education of the Republic of Korea and Korean Studies Promotion Service of the Academy of Korean Studies (AKS-2016-OLU-2250001).

**【著者紹介】**

尹惠貞(YOON Hejeong) 一橋大学大学院言語社会研究科、博士後期課程在学中。社会言語学的観点から絵本研究に取り組んでいる。

.....

**【註】**

- 1) 류재수 (1988) 『백두산 이야기』 통나무.
- 2)リュ・чесウ (著) 松居直・李相琴 (訳) (1990) 『山になった巨人 白頭山ものがたり』福音館書店。
- 3) 絵本は Picture books の訳語で、Barbara Bader(1976 : 1)が *American Picturebooks: from Noah's Ark to the Beast Within* で、絵本について初めて定義・宣言したと言われている。
- 4) ブロンズ新社ホームページ [Online] <http://www.bronze.co.jp/books/post-128/>.  
2018年2月11日アクセス。
- 5) 枠とは、絵がページいっぱいより小さい場合、紙の白い余白をいう。白い余白部分は絵本体と関連した模様を入れた装飾的な縁取りの場合もあり、様々なスタイルの線を使う場合もある。
- 6) 絵本を開いてはじめて目にする部分を前見返し部分という。見返しには主題や物語の内容を補うデザインが描かれている。前見返しが絵本の表紙を捲ると表れる部分であり、後見返しが絵本の裏表紙を捲ると表れる部分である。
- 7) 李・他 (2004) p.238、主体敬語法とは話者にとって尊敬すべき対象であれば、敬語を使うべき韓国語の敬語法の事である。
- 8) 前掲註7) p.243、客体敬語法とはその行為が対象に対して尊待するかしないかを表現する敬語法のことである。
- 9) 全国方言辞典—goo 辞書 [Online] <https://dictionary.goo.ne.jp/srch/dialect/> 2018年2月20日アクセス。
- 10) 2018年3月2日 18:07にSNSで何度か質問したところ、同日18:08から22分間で何度か返答を頂く。
- 11) 記者である長谷川義史氏にメールで尋ねたところ、「天女のキャラクターが大阪弁にぴったりの思いまりました。」(傍点筆者) という返答があった。
- 12) ペク・ヒナ (著) 長谷川義史 (訳) (2017) 『天女かあさん』ブロンズ新社。

【引用文献】

- 李翊燮 李相億 蔡琬 (著) 梅田博之 (監修) 前田真彦 (訳) (2004) 『韓国語概説』大修館書店
- 金水 敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語役割語の謎』岩波書店
- 鄭 惠先 (2007) 「日韓対照役割語研究—その可能性を探る—」金水 敏 (編) 『役割語研究の地平』(pp.71-93) くろしお出版
- 寺島弘子 「京都町家におけるあいさつ表現—年代差に着目して—」徳川宗賢・真田信治 (編) 『関西方言の社会言語学』(pp.8-32) 世界思想社
- 藤濤文子 (2014) 「視聴覚翻訳における非言語要素の役割—機能主義的翻訳研究の立場から—[抄録]」『異文化コミュニケーション論集』(pp.7-17)
- 藤本朝巳 (2000) 『昔話と昔話絵本の世界』日本エディタースクール出版部
- 藤本朝巳 (2007) 『絵本のしくみを考える』日本エディタースクール出版部
- ペク・ヒナ (著) 長谷川義史 (訳) (2016) 『天女銭湯』ブロンズ新社
- ドゥーナン・ジェーン (著) 正置友子 灰島かり 川端有子(訳) (2013) 『絵本の絵を読む』玉川大学出版部
- ニコラエヴァ・マリア&スコット・キャロル (著) 川端有子・南隆太 (訳) (2011) 『絵本の力学』玉川大学出版部
- リュティ・マックス (著) 小澤俊夫 (訳) (1969) 『ヨーロッパの昔話—その形と本質—』岩崎美術社
- 백희나(2012) 『장수탕 선녀님』책 읽는곰
- Barbara, B.(1976). *American Picturebooks: from Noah's Ark to the Beast Within* Macmillan Publishing.